

第4回長崎駅周辺エリアデザイン調整会議における指摘事項と対応について

資料2 - 1

○「第1章」

No.	指針P	項 目	第4回調整会議での主な指摘事項	対 応
1	P5	3. 使い方	○ デザイン調整の対象物と調整体制を具体的に整理し、学識委員に示すべきである。	・P5 中段を修正しました。 ・デザイン調整の対象物と調整体制の案については、資料4により検討を行っており、本会議でご議論頂きたいと考えています。
2			○ デザイン調整の体制については、現時点ではあまり記載せず、“このようなデザイン調整の仕組みを作っていきます”程度の表現に留めておいた方が良い。	
3			○ 実際に整備する時の調整だけではなく、市民若しくは民間事業者も含めて、当エリア内の広場や公共空間の使い方について、みんなで具体的に使う仕組み、使いやすいような仕組み等を検討することで、完成後にみんなで長崎らしいイベントを一体的に作っていけるような体制づくりを検討していくことを表記すべきである。	・P5 下段を修正しました。 ・広場や公共空間の使い方等については、今年度開催したワークショップや、次年度開催を予定しているワークショップ等で市民の意見を取り入れながら、検討していきたいと考えています。

○「第2章」

No.	指針P	項 目	第4回調整会議での主な指摘事項	対 応
4	P12 P13	(2)歩くことが楽しくなるまちにしよう	○ 街路等のデザインの方向性、および周辺街路の性格づけについては、作業部会・検討会議での検討対象と整理するのか。	・街路等のデザインの方向性、および周辺街路の性格づけについては、長崎駅舎・駅前広場等デザイン検討会議の中で検討を行います。
5			○ トランジットモール線と歩行者専用道路の格付けは、同じで良いのか。	・P13 参考図を修正しました。 ・トランジットモール線については東西軸を補う通り、歩行者専用道路については、広場的な要素を含むため、駅と水辺を結びつける憩いの通りとして整理しました。

No.	指針 P	項 目	第 4 回調整会議での主な指摘事項	対 応
6	P12 P13	(2)歩くことが楽しくなるまちにしよう	○ 長崎駅周辺エリアと元船エリアやまちなかエリアなどとのつながり(歩行者動線等)はどのようにになっているのか。	・P13 参考図中、「駅と周辺エリアとの連携」の凡例を追記しました。 ・県・市で行っている都市再生総合整備事業の中で、長崎駅周辺エリアとその他のエリアの動線の繋がりについては整理されており、その内容は参考資料1のとおりです。
7			○ 東西軸から街の広場と驛の広場の間(JR ビル予定地)に元船方面へ向けて動線(緑色)を追記すべき。	・P13 参考図に動線を追記しました。
8			○ 当初設定していた「溜まり空間」が欠落している。 ○ 図の範囲を拡げて掲載すべき。	・P13 参考図を修正しました。 ・考え方を再整理し、図の範囲を拡げ、元船方面の溜まり空間を追加しました。
9	P16	(4)長崎情緒が感じられるまちをつくろう	○ 長崎は、多様な歴史文化を有するとともに、常に新しいものにチャレンジしてきたまちである。駅周辺エリアにおいては、新素材や新技術等を積極的に取り入れ、21 世紀の長崎を代表するまちを創っていくことを表記するべきである。	・「心得 長崎らしい材料・技術を用いる」の記載内容を修正しました。
10	P20	3.空間デザインのイメージ	○ 駅舎のデザインがまだ確定していないが、 1) 新幹線ホームから海側の眺め、 2) 逆に県庁側から新幹線の駅を南側から見たイメージ等、駅と駅周辺の空間として重要な項目は、方向性を挙げておいて、駅舎のデザインが固まってきたら、スケッチが出せる、という風にして方が良い。	・新幹線ホームからの海側の眺めや海側からの駅南側の眺めは頭端駅として重要であるため、文言は指針に記載しておく方向で整理し、イメージについては、今後、作成し追加したい。

○「第3章」

No.	指針 P	項 目	第 4 回調整会議での主な指摘事項	対 応
11	P24 ~	第 3 章 デザインの作法集	○ 悪い事例も掲載すべきではないか ○ 「指針」に掲載するか、他の資料としてとりまとめるか検討してほしい。	・デザイン指針には、悪い事例を掲載するのではなく、良い事例を掲載してデザインを誘導していく方向で整理しました。

12	P29	「交通の乗換えの利便性を高める」(雨天時の動線)	○雨天でも濡れずにスムーズに移動できることは重要なポイントであり、建物通路等を含めて、歩行動線の工夫はいろいろあるため、文章は残しておき、どういう整備を目指すかというイメージ(事例)をもう少し工夫するべき。	・「大分駅シェルター」の事例イメージを「日向市駅シェルター」に変更しました。
13	P34	5.歩行空間と建物低層部のデザイン作法	○歩くことの楽しさは、沿道土地利用との関係に依るところが大きい。ショップフロントのデザインコントロール等も考えておく必要がある。	・ショップフロントのデザインコントロールの良例(P38 下段に掲載していた「センスの良い店舗の例」)を P34 に転載し、文章を修正しました。

○「その他」

No.	指針 P	項 目	第 4 回調整会議での主な指摘事項	対 応
14	-	○市民への説明	○「歩いて楽しいまち」にしていくことの重要性をいかに市民に伝えて、説明していくかを検討すべき。	・P6にも記載しておりますが、次年度以降に市民参加及び周知のための検討を行っていきたいと考えています。

○「全体スケジュール」

No.	指針 P	項 目	第 4 回調整会議での主な指摘事項	対 応
15	-	○全体スケジュール	○H30～34年の間の暫定供用期間の動線を検討しておくべき。 ○資料2-4(ppt)暫定期間のスケジュール表記を検討すべき。	・暫定期間の動線については、今後各事業者間で調整し、本会議に報告したいと考えています。